

南ア月報  
(2017年8月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

【内政】

- ズマ大統領に対する不信任決議案の否決

【外交】

- SADC 首脳会議の開催
- ズマ大統領のモザンビーク訪問
- ズマ大統領の BRICS 首脳会合出席

【経済】

- インフレ率
- 製造業・鉱業生産高
- 自動車販売台数
- 景況感
- 金融業憲章改正：黒人優遇策
- 鉱物・石油資源開発法：鉱業権及び探鉱権の新規申請と更新申請の制限の取り消し
- 第2四半期失業率の発表

【広報・文化】

- 我が国の核軍縮不拡散等に関するセミナーの実施
- 日本人写真家による講演会の実施

【警備】

- 交通警察官による汚職

1 内政

●ズマ大統領に対する不信任決議案の否決

8月8日午後、野党側が主導したズマ大統領に対する不信任決議案が国民議会（下院）にて審議され、僅差にて否決された（投票結果：全投票数 384 のうち、賛成 177、反対 198、棄権 9 票）。当地メディアの分析によると、棄権票を含めると、今回 42 名もの与党 ANC 議員が不信任案に対して反対票を投じなかった計算となる。

今回の不信任決議案は、ムベテ国民議会議長の決断により秘密投票下で実施され、過去 7 回の同決議案の採決に比して最も僅差で否決された。本結果により、与党 ANC の結束力の乱れ・衰退傾向は確実に進んでいる一方で、ANC 党内におけるズマ派は依然として影響力を有していることが明らかになった。

2 外交

●SADC 首脳会議の開催

19 日及び 20 日にプレトリアで SADC（南部アフリカ開発共同体）首脳会議が開催され

た。ズマ南ア大統領は SADC 議長声明を发出。レソト新政権が SADC の決定事項を実施に移すことにコミットしていることを歓迎しつつ、SADC 及び調査委員会の全ての決定を実施するためのロードマップを 2017 年 11 月までに提出するよう求めた。また、コンゴ(民)の独立選挙委員会に対し、選挙日程の見直しを求め、元国家元首のレベルで SADC 特使を指名することを認めた。

首脳会議では、地域のエネルギー供給及び産業発展において、天然ガスの普及を促進する地域天然ガス委員会を設立することが協議された。

#### ●ズマ大統領のモザンビーク訪問

23 日、ズマ大統領は、南ア・モザンビーク二国間委員会第二回会合に出席するためにモザンビークを訪問した。両大統領は、地域及びアフリカ全体の平和と安全保障の課題や、二国間関係の俯瞰、さらなる関係強化のための戦略的関与、双方にとって重要な優先項目等について協議した。25 日、両大統領は、二国間委員会が成功裏に終わったことを評価しつつ、本委員会が 2015 年に発足して以来、両二国間関係がますます強化されたことを確認した。

両国間の経済関係は拡大を続け、特に、貿易、投資、科学、技術、農業、環境、エネルギー及びインフラ開発の分野で協力が進んでいる。

#### ●ズマ大統領の BRICS 首脳会合出席

ズマ大統領は、9 月 3 日から 5 日まで中国の厦門で開催された BRICS 首脳会合に出席した。首脳会合では、共通の発展のための BRICS 域内の協力深化、合同で課題に取り組むためのグローバル・ガバナンスの強化、BRICS 諸国間の協力を支えるための人材交流実現及び、組織的改善と一層幅広い協力関係の構築によって、BRICS が積み上げてきたこれまでの成果を拡充することが話し合われた。

同様に、国際紛争、テロに対する闘い、グローバル・ガバナンス機構の改革、特に国連及びブレトン・ウッズ機構の民主化等の共通の関心事項が議論された。首脳達は、BRICS ビジネス評議会に出席し、BRICS 開発銀行の総裁と面会した。

### 3 経済

#### <経済指標>

##### ●インフレ率

南ア統計局によると、7 月の消費者物価総合指数(CPI)は 4.6%、前月比の変動率は 0.5%減。物価指数は、前月から 0.3%増。

##### ●製造業・鉱業生産高

南ア統計局によると、6 月の製造業生産高は、前年同月比 2.3%減。主な要因は、製造 10 部門中、石油、化学製品、ゴム及びプラスチック製品の生産減と、食品、鉄鋼、非鉄金属製品、鉄製品及び電気機器の分野の生産増。季節調整後生産高は、前月から変動せず(2017 年 5 月の前月比は 0.3%減、2017 年 4 月の前月比は 2.2%)。第 2 四半期の製造業は第 1 四半期に比べて 1.5%増。主な変動要因は食品、自動車及び運送機器の生産など 10 部門中 6 部門での生産増。

鉱業生産高は、対前年 0.8%減。主な変動要因は、製造部門のダイヤモンドの生産増と、PGMs の生産減。季節調整後生産高は、前月比 2.6%減。第 2 四半期の鉱業生産高は、第 1 四半期に比べて 0.6%増。主な変動要因はマンガン鉱石の生産増と、PGMS の生産減。

## ●自動車販売台数

南ア自動車工業界 (MAAMSA) によると、8月の総販売台数は49,222台となり、前年同月比の6.7%増。そのうち、81.9%をディーラー販売、11.9%をレンタカー販売が占めている。新車販売台数は32,161台を記録し、前年同月比5.4%増となり、そのうち16.6%をレンタカー業界が占めている。国内販売では、軽乗用車、軽トラック及びミニバスが前年同月比10.8%増。他方で、先月に引き続き伸び悩んでいるのが、中型及び大型トラック。輸出版売台数は、前年同月比12.9%減（前月7月の輸出版売台数は、前年同月比22.2%という大幅増を記録していた）。MAAMSAは、過去2ヶ月の販売状況から、2017年の南ア自動車市場は前年比1.0%または1.5%の回復が見込まれると推測。

## ●景況感

Absa Bankが発表した7月の購買担当者指数 (PMI) は、42.9ポイントを記録し、前月比3.6ポイント減。

## <出来事>

### ●金融業憲章改正：黒人優遇策

7月27日、同憲章評議会 (FSCC) は黒人優遇策を定める金融業憲章改正案を発表し、同案を貿易産業省に提出した。憲章改正案はFSCCで起案され、2015年前半にパブリックコメントに付せられ、同年8月に貿易産業省に提出されていたが、依然として同省とFSCCで改正案の内容につき検討がなされていた。今般の憲章改正では、外資金融機関は自動的に黒人所有の義務が免除されないという方向にて検討が行われていることが明らかとなった。これまで、外国子会社の株式売却を禁じる外資金融ホールディングスには、株式相当 (equity equivalent) の投資を行うオプションがあったが、今後は、株式相当の代替案を申請する資格の有無につき、予めデービス貿易産業大臣からの認可が必要となる。

### ●鉱物・石油資源開発法：鉱業権及び探鉱権の新規申請と更新申請の制限の取り消し

4日、プレトリア高裁において、①鉱物資源大臣が、7月19日に公表された官報（鉱業権及び探鉱権の新規申請と更新申請を制限する提案）の内容を実施しないこと、②鉱物資源大臣が、期限を超えても未だ提出していない南ア鉱業協会 (Chamber of Mines) からの訴えに対する宣誓供述書につき期日を遵守出来なかった理由を添えて14日以内に提出すること等の判決が下された。なお、判決に際しては、鉱物資源大臣が宣誓供述書の提出期限を遵守しなかったこと、また、官報に公表した内容を法的手続きとは言えないプレスリリースのみで取り消そうとしたことについて、注意喚起がなされた。

### ●第2四半期失業率の発表

7日、南ア統計局は第2四半期の失業率を27.7%と発表（前回発表の第1四半期でも、過去13年で最高27.7%を記録していた）。南アの雇用者数は1610万人となり、前回統計時から11万3000人減。正規部門では、3月～6月の間に14万4000人分の雇用が失われた。産業別では、特に打撃を受けた建設業では11万人分、鉱業で1万3000人分の雇用が失われた。他方、商業部門では5万8000人分、金融部門では1万7000人分の雇用が創出された。非正規部門では、3月～6月の間に8万人分の雇用が創出され、農業部門で失業した4万人分と、家庭内労働者3万2,000人分の働き口となった。有識者は、南アの高い失業率を就業意欲がない人々を含めた広義とした場合、その数が36.6%（第1四半期では36.4%）と高いことを懸念。就業年齢を25歳以下としてみた場合、失業率は67.4%という危機的数値とも指摘している。

#### 4 広報・文化

##### ●我が国の核軍縮不拡散等に関するセミナーの実施

戦後 70 余年を経過して培ってきた日本政府としての考え方、核兵器使用の惨禍を後世に伝えることの重要性に焦点を当て、核のない世界の実現に向けた国際社会の平和と安定のための取組に対する理解の醸成を図ることを目的とし、10 日から 18 日の間に核軍縮・不拡散を含む核廃絶に向けた我が国の取組に焦点を当てたセミナーを実施。期間中 6 回実施した講演には約 600 名の来場があった。

当地中等高等学校の教育指導要綱において核問題、核軍縮・不拡散を学ぶカリキュラムがあることから、対象を南ア一般層のみならず、特に当地高校生、大学生や学術機関、教育関係者に拡張して実施した。当地の若年層に核兵器のない平和の重要性を伝え、その意義を啓発することで核軍縮不拡散教育の効果が期待できる。

##### ●日本人写真家による講演会の実施

24 日（木）、プレトリア大学において、当館及びプレトリア大学日本研究センターの共催により、南アを訪問中の写真家澤野新一朗氏を講師として迎え、「日本の文化と癒やし」をテーマとした講演会が実施された。講演では、澤野氏による日本の風景を中心とした作品がスライドショー形式で上映され、その美しさに多くの参加者が息をのんだ。参加者からは、視覚を通じて日本に対する興味が非常に深まった、是非訪れてみたいとの声が多数上がった。

#### 5 警備

##### ●交通警察官による汚職

Road Traffic Management Corporation (RTMC) は、汚職対策班及びハウテン州国家警察特別対策班等がハウテン州交通部に所属する 55 歳の交通警察官を汚職の罪で逮捕したと発表した。

この交通警察官等は、今年 7 月、55 号線の Olivenhoutbosch で定員オーバーのタクシーの取締りを行ったときにタクシー運転手に 50 ランドの賄賂を要求したものの運転手が 40 ランドしか所持していなかったため、その 40 ランドを受け取った上、運転手の携帯電話を奪ったとされる。この警察官は汚職及び強盗の罪で訴追されることとなる。

交通警察官による金銭の要求等の汚職は後を絶たず、3 ヶ月間で 11 人目の逮捕者となった。本件についての捜査は続いており、更なる逮捕者が見込まれる。

(了)